

地方力



<発行>
前野弘明後援会
<事務所>
岩国市通津1951-10
岩国市由宇町中村
<連絡先>
39-0007
63-1379
<編集者>
岡崎康司

二月18日
と22日、
韓国の地方議員選挙を前にしたセミナーに招待され地方力のまちづくりについて、お話をさせていただきました。
左記その要旨です。

日本の政治と政権交代

昨年、日本において政権与党であった自民党が敗北し、野党の民主党が政権を取った。何故政権交代が起こったのか、その原因は、自民党政権が、年金問題での失策、政権リーダーの相次ぐ失脚、政治家の不祥事件、官僚との癒着等自ら墓穴を掘ったのである。国民は、一時のお灸をすえる意味で民主党に入れるという批判票を投じたのである。反省させて自民党に立ち直ってほしいと願っている人が76%という世論調査の結果がでている。

一方、生活第一を強調した民主党はどうか。国家の将来、国民の安寧を本当に預けるにふさわしい政党と言えない。「子供手当」「農業者個別所得補償」「高速道路無償化」などの諸政策は、

「自立と自己責任」の国民精神を墮落させ、選挙目当てのばら撒き政策であり、国民を愚弄した愚民化政策と断じたい。「おかみの世話にはならない」という日本の良き精神が失われようとしている。

又、安全保障政策においても、日米関係を悪化させ国民生活を根底から揺るがすところまで来ている。かつて共産党は、「母と子のための共産党」「弱者の味方共産党」と宣伝した。「嘘も百篇言えば真実になる」作戦をとった。

今、日本の民主党は、同じ道に行こうとしている。現に、連立政権の民主党には、社民党という社会主義者がその政策面でかなりの影響を与えている。

更に、民主党の党首、国家首相は「脱税王」と国会で烙印を押されているのみならず、その幹事長は、自分の秘書3人が逮捕されるという不祥事を起こしておきながら、政権の座にしがみついている醜態は、「生活第一」のスローガンとは

著しく乖離していることを示している。国民の良識が回復されれば、民主党は近い将来見放され消えてしまうことになるであろう。

日本で起きた政権交代は、国民に混乱と不安を与えている。韓国では、大統領制に限界を感じている。地方の願いが十分に国に伝わっていないという。世界情勢は、しばらくの間日韓米の同じ価値観を持っている国家群の協力体制が必要である。今こそ「真の自由主義」を確立し、自立した個・家庭・地方が国と世界を支える為、“地方力”の高揚が望まれる。

これからの時代は、安直な耳障りのよい「生活重視」「人権重視」等の甘い言葉で国民に接するのではなく、「自立と自己責任」「自助努力」にもとづいた思想哲学をもつて、国政も地方政治も作り上げる必要がある。

英国を再生したサッチャー元首相は言った「国家は人なり」と、まず良き市民を育てる教育に力を注ぎ、良き伝統精神と道徳精神を復興させたのである。

また、アメリカのレーガン大統領は、「国家の基盤は家庭である」として家庭基盤を重視した政策を展開し国家の危機を救った。

選挙の実際・心構え

選挙に必要なものは、「地盤・看板・カバン」ですが、本当に必要なのは、「人格」「至誠」「実行力」ということであると信じています。

最近では、「耳触りのよい言葉」「同情をさそう行動」「宣伝のうまさ」などで議員になっているものもいますが、その「手法に凝りすぎた」所為で、本当の姿を隠し嘘にウソを重ね

なた末に、ぼろが出るのがおちなのです。票さえ取ればよいという発想は、ポピュリズムに翻弄され、最後には大衆の中で抹殺忘れ去られます。

日本国で起きた「政権交代」が示してくれたものは、「我々は政治に何を望むべきか。」ということです

政治に携わる者は、発想の原点である「思想哲学」を明確にし、理想社会のかたちを明示し、具体的展開法を示しておかねばならないと思えます。思想哲学とその目的は共有できるので、それを柱にもった政党や個人を必要とします。そうすれば、後に次ぐものが、具体的手法は変化しても、国家社会の発展を約束できるのです。

自民党は、思想哲学や目的観が希薄になったから、飽きられたのですから、どんなによいマニフェストを造っても、このままでは支持が元に戻るということはないということになります。

民主党においても、マスクミの過剰宣伝ゆえに受けた支持でした。小泉チルドレン以

知行合一の倫理観を養成、公私共に崇高で着実な目的観、総合的判断、家庭再建で真の自由主義を確立しましょう！
地方力を基台とした修身齐家治国平天下 道義国家建設で東アジア平和圏を達成しましょう！

上に刹那的感情による判断だったので待たずして飽きられるでしょう。また、自民党以上に極端な共産主義者を抱えているがゆえに、バックギアと前進ギアを同時に入れた車と同じで、自壊することになるでしょう。

ましてや、政治資金に係わる問題等、政治浄化の力もない選挙で勝つことしか考えない集団的利己主義の党が国を支えることはできないわけです。口先だけの政治家では国の行く末は暗黒です。日本国民は、事の重大さに気付き方向転換しなければならぬでしょう。

さらに、前述したように、政治を行うものは、少なくともその人格高潔であること、公を主体とする目的観を大事にし、確実に実現させる力（知行合一）を養っておかねばならないでしょう。政治を一流にするための政治家育成機関も必要です。

そこで、「真自由主義」の提案をいたします。

今回の政権交代を機会に、如何に中央が変わったとしても地方の願いを実現する為に、「地方力」による地方自治の再生をしようと思っております。



岩国市議会議員前野弘明

前野弘明のあゆみ

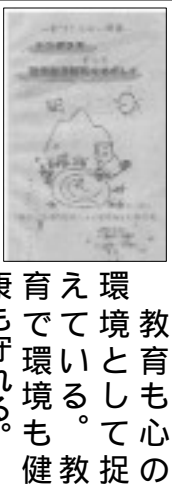
今回は特別号として、前野弘明市議の地方力による二〇年間の活動について、説明します。

まずは、プロフィールから。
昭和28年4月9日由宇町中村に誕生
由宇小中学校卒、柳井高校を経て
昭和53年国立広島大学理学部卒業
昭和58年から4年間高村代議士秘書
昭和62年(株)日本総合建物勤務を経て
平成3年岩国市議会議員初当選
保護司、幼稚園役員、地区社協会長を
歴任現在に至る。

マニフェスト作成(93年)

建設常任委員長就任を記念して、「エコポリスそして環境創造都市をめざして」を出版。自身の政策のポイントを「環境と教育」として、論文とデータ集の構成で出版した。広島大学理学部卒業が意味するものを示したものである。

私の政策の原点となっている。「水と空気で造る豊かなまち」という副題も付いている。当時、それ程環境に関心がなかったため、珍しい議員だったよ。



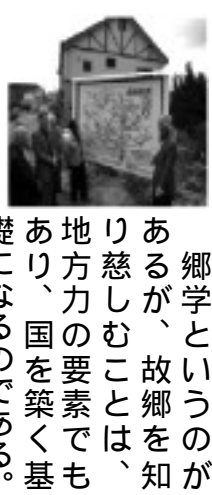
文化の光に岩国(94年)

地域を理解しようとする、文化に光をあてることになる。

岩国は明治維新の哲学者「東澤寫」を輩出、江戸時代には多くの剣豪が生まれた。東先生は、維新の人材を育て、日本陽明学に貢献した。

以後、陽明学は日本の著名な指導者の行動哲学として重んじられている。

講演会の講師は、林田明大先生(陽明学者)と甲野善紀先生(古武術家)で開催した。



世界の子供と手をつなごう(97年)

岩国基地は以前民間国際空港として使用されていた。平成二四年春には軍民併用の空港として再開予定である。

岩国は、他にも港があり高速ICや新幹線の駅もある。人・モノ・情報が交流する都市である。当時、幼稚園育ての会の役員であったので、教育的見地で、この会を企画主催した。アフリカの国「ジエール」の子供たちを支援した。

地区社会福祉協議会会長として(99-08年)

地域内の些細なことも知らなければならぬ。とんど祭、敬老会、亥の子祭、いきいきサロン、見守り隊を主な事業とし、地域福祉の向上のため、ボランティア活動を援助する目的で組織を改編した。



「りふれっしゅ村構想」企画(02年)

地域の将来像、ホスピタリティ

豊かなまちづくりを企画した。

ボランティア精神を養う機構としてNPO法人の設立、住民交流の起点である挨拶の習慣化、いきがい活動、交流拠点づくり、健康増進機構等の施策を指して、現在進行中である。



NPO法人通津地区の自然と環境を守る会発会(02年)

ひとりから始まった川の草刈り・清掃が地域のボランティアに火をつけた。仲間で作業したいと申し出があった。

県の管理河川なので県のハードルを超えるように、社協で地域の活動として認め、保険をかけた。

その後、市は「ボランティア保険」導入の提案を実現した。県は、県道の管理を委託してきた。将来、活動収益で交流施設建設に貢献戴ければありがたい。

民俗芸能伝承研究会(03年)

伝統文化を大切にすることは、地域復興の力「地方力」となる。さらに、地域の行事をまとめて紹介する「ふるさとの祭」企画を提案した

つづみ塾(04年)

学校の授業についていけないように、家庭学習ができるように、地域のボランティア講師による塾を始めた。

アドバンスつづみ塾(07年)

興味のあることで学校では体験できないことを、それぞれ地域の有志が講師となって学内で開講中。地方力のなせることだ。



07年微生物観察



08年エンジン組立



09年パソコン組立

地方力

しのぶえの会(07年)

感性教育、しのぶえで自然と一体感として、日本人の心の復活を。



いわくに研究会(08年)

地域ブランド開発育成でまちづくり！
味王トーナメント開催をめざしている。只今、レンコン新メニュー

を売り出し中。

あつと驚くような「当地メニュー」を間もなく紹介する予定。

情報推進会議(08年)

元・現議員や政治に深くかかわりのあるメンバーで構成され、岩国市の重要な案件を解決するのが狙い。難しい陳情や行政に影響を与える会として期待されている機構。概ね市議会定例会前に開催するが、案件があれば随時。

面高会発足(09年)

学校支援団体として設立。「平成の寺子屋」実現が夢。左記、会の目的を示しました。

この会は、郷土を愛し心身ともに健全なることを基盤とし、世の中が如何に変化しようとも、変わらない普遍的理性と良心に端を発し、常に現実を認知した上で、理想的地域社会建設のため、責任ある行動と実績を後世に繋ぐことを通じて、地域社会の継続的発展を願い、ここにその決意とともに結成するものである。

